

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
英語Ⅰ(基礎)	2(60)	必修	1	後期	非常勤講師 Lester Ng	近年、日本を訪れる外国人数が増えている。それに伴い、医療現場においても外国語での対応が迫られる機会が増えてきた。そうした状況に対応できるようになるために、英語Ⅰでは、看護英語の基礎をできるようにする。実際に想定される場面にに基づき、会話を中心とし実習形式の授業を行う。
英語Ⅱ(応用)	2(30)	必修	2	前期	非常勤講師 Lester Ng	英語Ⅰで得た英語の基礎をもとに、医療現場で遭遇する様々な状況に対応できる英語によるコミュニケーション力が習得できるようにする。具体的には、学生主体の双方向型授業形式により、自分の意見を英語で表現できる力を高めるように導く。
医療英語	1(30)	選択	4	後期	非常勤講師 友松 郁子	英語Ⅰ、Ⅱで修得した英語学力を基礎に、病院等の看護提供場面で遭遇する簡単な会話コミュニケーションの演習や英語で記述された短い学術論文を読解するなど、医療英語に多く触れることを通して、研究や臨床で実践的に活かせる英語学力を修得するよう教授する。
基礎ゼミナール	2(60)	必修	1	通年	准教授 上田 耕介	前期は、学生が大学での学びに対応できるよう、大学の特徴、文献検索法、レポート執筆法について、講義を行う。後期は、履修生を約10名のグループに分け、各グループに指導教員を配置し、グループ学習をおこなう。各教員は、学生自らがテーマを選定し、能動的・主体的な研究をすすめられるよう、議論の仕方、資料収集、批判的検討などについて指導する。授業の最終回には、研究成果の発表会を開催する。
看護の基礎物理	1(15)	選択	1	前期	非常勤講師 川崎 敏	単なる知識を学ぶのではなく、自然法則が観察や実験からどのような論理で見出されたのかを知り、「科学的な考え方」を学ぶことに重点をおく。講義では、自然科学の基盤である物理学の法則をいくつか取り上げ、なるべく数式を使わずにその概念を平易な言葉で説明する。そして看護技術、医療機器、人体の機能、あるいは日常生活に物理法則がどのように関わっているか、多くの練習問題を通して考えてもらう。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
看護の基礎数理	1(15)	選択	1	前期	非常勤講師 川崎 敏	医療現場や看護研究において数値計算を避けて通ることはできない。本講義は、特に数値計算が苦手な学生を対象に計算の基礎から説明する。そして看護職にとって特に必要な物理量の計算をとりあげ、計算の意味、結果の予測と検証、および結果の適切な表し方について教授する。
対人コミュニケーション	1(15)	必修	1	前期	教授 岡田 実	学生生活上及び医療従事者の基本的能力として、会話を通じたコミュニケーション・スキルを向上させる基本を修得させる。コミュニケーションとは何か、コミュニケーションを成り立たせるさまざまな要素、コミュニケーションの多様性、治療的・非治療的なコミュニケーションなどを学ばせ、医療現場におけるコミュニケーションの重要性を理解するとともに、治療や看護を患者に届ける道具としてのコミュニケーションのありようを修得させる。
人間関係	1(30)	必修	1	後期	教授 岡田 実	対人コミュニケーションの授業で得たコミュニケーション能力を基礎に、医療現場におけるコミュニケーション・スキルを学ばせながら、自己及び他者の理解を深めさせ、相手に関心を持ち、他者とのコミュニケーションをはかる基本的知識・技術・態度を教授する。学生生活における他者との関係づくり及び臨地実習における対象との援助関係づくりの基盤とする。
形態機能学Ⅱ (生理学)	2(60)	必修	1	前期	教授 三浦 靖彦	看護の実践、特にフィジカルアセスメントの基盤となる、人体の基本構造と器官系の正常な機能について教授するだけでなく、どのような機能によって恒常性が維持されているのか、その調節・制御機構を学修し、また日常生活にどのように影響を及ぼしているかに関する知識を教授する。
病態生理学	2(30)	必修	1	後期	教授 三浦 靖彦	病気を抱える人間を理解するうえで基盤となる、病気の成り立ちとその症候についての基本的知識を修得し、疾病治療論の学修へと理解を教授する。具体的には、細胞の傷害、再生、老化と変性を理解し、炎症、感染、アレルギーの基礎的知識を学修する。循環障害、ショック、疼痛、浮腫等主要な症状に関して、その成り立ちと治療について教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
疾病治療論Ⅰ (内科学)	2(30)	必修	1	後期	教授 三浦 靖彦	人体の基本構造と機能を理解したうえで、主な疾患の病因及び症候と診断について基本的知識を修得し、さらに最新の内科的治療方法について教授する。具体的には、身体機能の系統別に、脳・神経系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、免疫・アレルギー疾患の発生機序や病態、診断、治療について学び、内科的治療を受ける患者の看護援助に必要な医学的基礎知識を修得できるよう指導する。
疾病治療論Ⅱ (外科学)	2(30)	必修	2	前期	非常勤講師	人体の基本構造と機能を理解したうえで、外科的治療の基本および、消化器疾患、脳神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、整形外科疾患、泌尿器疾患、乳腺疾患、内分泌疾患の手術の適応・診断基準、主な術式、術前・術後管理について学べるよう、外科的治療を受ける患者の看護援助に必要な医学的基礎知識を教授する。
疾病治療論Ⅲ (母性)	1(15)	必修	2	前期	非常勤講師 吉崎 陽	女性生殖器の基本構造と機能を理解したうえで、女性特有の主な生殖器疾患の病因及び症候と診断について基本的知識を修得し、さらに最新の治療方法について理解を深められるよう教授する。 具体的には、性分化の異常、性ホルモンの異常、性感染症、不妊、更年期障害、良性・悪性腫瘍などの婦人科疾患、周産期におこりやすい異常である切迫流産・妊娠高血圧症候群・胎盤の異常などの診断と治療の概要について臨床経験を含めて知識を教授する。
疾病治療論Ⅳ (小児)	1(15)	必修	2	前期	非常勤講師 高橋 明雄	人体の基本構造と機能を理解したうえで、主な疾患の病因及び症候と診断について基本的知識を修得し、さらに最新の治療方法について理解を深められるよう教授する。 具体的には、新生児医療や遺伝性疾患をはじめ、小児の代表的な疾患とその治療について学修し、小児看護学を学ぶ上での基礎となるよう教授する。
メンタルヘルス論	1(15)	選択	1	後期	教授 岡田 実	心の構造と機能、心の発達・成長、心の健康と病理及び心の健康を維持・増進するために必要な主な理論や概念に関する知識を教授する。さらに、ライフサイクルの中や家庭や学校、職場といった集団内における心の健康や起こりやすい健康問題について理解を深めた上で、よりよい成長・発達のための支援の考え方を教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
感染免疫学	2(30)	必修	1	後期	非常勤講師 井上 都之	人間と関わりのある微生物の特徴と発症の要因、感染と生体防御のしくみ、免疫について教授する。また主な感染症が人間の生活にどのような影響を及ぼしているのか、院内感染管理及び看護の場における最新の感染予防対策について教授する。これらを基盤に、肺炎、結核をはじめとした主な感染症とともに輸入感染症や薬剤耐性菌の感染経路、制御対策に関して教授する。
生涯発達論	1(15)	必修	1	前期	教授 吹田 夕起子	看護の対象である人間の一生涯を生涯発達の観点すなわち出生から老年期、死に至る過程を発達のプロセスとして捉え、発達に関する諸理論および各発達段階の身体的、精神的、社会的な側面の特徴について学び、生涯発達を支える看護を考えるうえでの基礎となるよう教授する。
臨床栄養学	1(30)	必修	2	前期	非常勤講師 山崎 久美子	生命維持に必要な栄養素とその機能、代謝の基本的知識を教授する。栄養状態の評価、食生活と健康障害の関連について栄養管理の視点で解説し、治療・療養上必要となる主な栄養方法について教授する。その上で、人間の発達段階及び治療過程における栄養の特徴、主な食事療法、栄養食事指導・相談の基本について教授する。
臨床薬理学	1(30)	必修	2	前期	教授 三浦 靖彦	薬物の体内動態や薬理作用・副作用に関する知識、健康回復過程における様々な薬物療法とともに、薬物療養中の患者支援や服薬指導に関する基本的知識を教授する。さらに小児・妊婦・授乳婦・高齢者などの特殊な身体状況にある患者への安全な薬物の投与方法や危険性、法令に基づく薬物の管理方法について教示する。
ヘルスプロモーション論	1(15)	必修	2	後期	教授 佐藤 公子	ヘルスプロモーション活動の歴史・目的、根拠となる理論と施策、地域における健康づくり支援を目的とした様々な活動の実際について学び、看護職の役割と機能に関し必要とする知識について教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
チームケア論	1(15)	選択	2	後期	准教授 上田 耕介	現代の医療では、単に心身の疾患の治療にとどまらない、生活の質（QOL）の維持・向上など総合的な目標の実現としてのケアが追求されている。さらに看護師の活躍の場は、病院だけでなく、生活の場、地域の中に一層の広がりを見せており、そこでは多（他）職種との協働が欠かせないものとなっている。そこで本講義では、ケアチームの一員として、地域包括ケアの担い手として、医療関係の他職種はもとより、福祉など医療以外の多（他）職種と協働できる能力を養うべく、医療社会学の基礎、医療や福祉の現場でのチームケアの具体例の紹介、解説を行う。こうした学習を通して、チームの一員としての役割、チームのあり方を考察する視点の修得を促進する。
ボランティア論	1(15)	選択	3	前期	准教授 上田 耕介	現代社会のさまざまな領域で展開される多様なボランティア活動の意義を、個人と社会とのつながりから講義すると共に、グループワークを行う。最初にボランティアの歴史的背景を解説し、その後に、地域コミュニティ、被災地における多様なボランティア活動など具体的な取り組みを紹介し、解説する。これらを踏まえて、グループワークでは、ボランティア活動の社会的意義、地域における意義、今日の医療・福祉における必要性や位置づけについて、ディスカッションを実施する。
公衆衛生学	1(15)	必修	2	後期	非常勤講師 伊藤 僚子	公衆衛生看護活動の基礎となる公衆衛生について基礎的知識を教授する。日本や世界の人々の健康問題を統計からとらえ、それらに影響を及ぼしている社会の諸要因について解説する。また、現在実施されている公衆衛生対策を紹介し、公衆衛生的視点から、疾病予防や健康増進の地域での展開方法、健康問題の解決方法について解説する。
疫学・保健統計Ⅰ (基礎的知識)	2(30)	必修	3	前期	非常勤講師 伊藤 僚子	人々の健康水準を把握する保健統計の意義と技術について触れ、公衆衛生活動の現状と課題について解説する。また、健康問題の要因を明らかにするための疫学的思考及び影響要因を探索する考え方を修得し、看護活動の計画、評価のための基礎的知識を養う内容である。
保健医療福祉行政論Ⅰ (基礎的知識)	2(30)	必修	3	前期	非常勤講師 齋藤 昭彦	保健・医療・福祉行政の基盤となる社会保障制度の概要と動向を概説し、特に、看護師に専門的な知識が求められる医療保障、介護保障について詳説するとともに、社会福祉の各分野の基礎的知識についても概説する。 また、地方自治体の保健医療福祉行政の実際については、岩手県と県内市町村を取り上げ、その仕組みや役割、医療・保健・福祉の行政計画について概説する。 さらに、医療・保健・福祉の連携について、事例を通して学ぶとともに、岩手県内の市町村における地域包括ケアシステムの構築の実際についても教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
看護学概論	2(30)	必修	1	前期	教授 土田 幸子	看護を学ぶ出発点として必要な基礎的知識・技術、看護者としての態度を習得させる。看護の歴史的変遷から専門職として発展過程を概説するとともに、看護の目的と役割機能、看護における「人間」、「健康」、「環境と社会」の各概念とこれらの関係性、さらに看護実践の構造について考察してもらう。また、社会の中での看護実践を支える法と倫理、保健医療福祉チームの概念とその意義について考えてもらう。また、こうした学習を通して、看護学に対する関心を高め、看護専門職としての実践の基盤となる個々の看護観を育む。
早期体験実習	1(45)	必修	1	前期	教授 土田 幸子	看護職が活動している様々な場の特徴ならびにそれぞれの場で果たしている看護職の役割の多様性を知るとともに、看護職者としての基本的な態度やあり方を考えてもらう。それにより、看護学を学ぶうえでの動機づけとなることをねらいとする。
基礎看護援助論	2(30)	必修	1	前期	教授 永井 睦子	看護技術とは何か、看護技術の特徴および看護技術基本的な概念、看護実践における看護技術の意義を教授する。そして、看護技術における安全・安楽・自立の基本原則について教授する。また、看護援助の基盤となる「コミュニケーション」「感染予防」「ボディメカニクス」「体位変換」等の必要性を理解し、看護の対象者に応じて実践できる基礎を身につけることができるよう知識と実践が統合できるよう講義と演習を組み合わせる展開する。さらに、学修全体を通して、看護専門職者としての基本姿勢・倫理的態度、及び専門科目の学習方法、看護を实践するための思考方法を養う。
生活援助技術論	2(60)	必修	1	後期	教授 永井 睦子	対象となる人の安全・安楽・自立・自律を保証しながら、対象者の日常生活を支援するための看護技術の意義と、生活援助技術の基本を教授する。そして、日常生活行動への支援を必要とする健康障害を持つ対象者に対して、適切な看護実践の過程を体験を通して修得できるよう教授する。 さらに、常に対象者の想いに寄り添い、対象の個別的な状況を考慮して看護を実践しようとするケア・スピリットの基盤となる姿勢・態度が修得できるよう教授する。
看護理論	1(15)	必修	1	後期	教授 永井 睦子	看護理論に関する基礎知識や看護理論家による代表的な看護理論を教授する。具体的には、それぞれの理論家の看護のメタパラダイムや理論内容および看護実践への活用方法について講義する。看護理論を学ぶことにより、看護現象を科学的に理解する力や看護の基盤となる看護観を養う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
ヘルスアセスメント	1(30)	必修	1	後期	教授 土田 幸子	看護におけるヘルスアセスメントの定義や目的、問診・視診・触診・聴診・打診の方法および系統別フィジカルアセスメントの目的と方法を教授する。具体的には、バイタルサイン、系統別フィジカルアセスメント技術を学び、学生同士ならびにシミュレーション教材を活用した演習を通して、対象を全人的にアセスメントできる基本的能力(知識・技術・態度)を養う。
生活援助実習	1(45)	必修	1	後期	教授 土田 幸子	病院で療養生活を送る患者を受持ち、患者との援助関係を築き、その過程と療養生活環境を理解する。そして、対象者との関りから療養生活に必要な援助とその必要性を明らかにし、学内で学んだ日常生活援助の基礎となる知識と技術を活用し、個々の日常生活のニーズの充足やセルフケアを促すための援助を実践する基礎的な能力を養う。
療養援助技術論	2(60)	必修	2	前期	教授 永井 睦子	診療(治療・検査)に伴う援助技術について、科学根拠及び理論的根拠を踏まえて基礎的な知識と、侵襲を伴う技術を安全・安楽に提供するための原理原則を教授する。具体的には、感染管理とスタンダードプリコーションに伴う技術、滅菌操作および創傷処置に伴う技術、吸引、酸素吸入、採血等検査に伴う技術、与薬に伴う技術について、講義における知識と演習における技術を統合した基礎能力を養う。
看護過程論	1(30)	必修	2	前期	教授 土田 幸子	科学的な思考過程をもとに、看護実践を支える思考の方法としての看護過程の重要性と、看護過程の構成要素であるアセスメント、看護問題の抽出、計画立案、実践、評価の内容と展開方法を教授する。そして、紙上事例を用いて看護過程を展開する基礎的な能力を修得できるようグループワークを中心にし、グループ全体および個別的指導を行う。
ケア・スピリット論Ⅱ (看護倫理のあり方)	1(30)	必修	2	後期	准教授 石井 真紀子	ケア・スピリットと看護職者が備えるべき倫理を密接にかかわりあうものと理解したうえで、看護における倫理的概念を学修し、事例演習を通して患者の人権を尊重する態度、倫理的判断能力を修得させる。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
療養援助実習	2(90)	必修	2	前期	教授 土田 幸子	看護過程論で習得した科学的な思考過程を基礎として、慢性的な疾病をもちながら療養生活を送る対象とその家族を理解し、看護過程を展開するための基礎的能力を高める。中でも、看護過程の第一段階であるアセスメント過程を通し対象の理解を深め、対象が抱える看護問題を明らかにすることに重点をおく。そして、対象の看護問題を解決するために看護計画を立案し、看護計画に基づいた看護の実践から、評価の重要性を理解できるよう教授する。
家族看護論	1(15)	必修	2	後期	非常勤講師 中村 由美子	家族看護とは何かという定義やその必要性および役割について学ぶとともに、様々な健康レベルにある家族の健康問題を理解し、家族看護の諸理論(家族システム論、家族ストレス対処論、家族発達論等)を活用して、家族を1単位としたアセスメント技術の実践および家族機能を高めるための援助方法の基礎を修得する。
地域・在宅看護学概論	2(30)	必修	2	後期	准教授 越納 美和	地域で生活するあらゆる健康段階の人々と、その家族を看護の対象として捉え、地域・在宅看護の歴史や地域・在宅看護が必要とされる社会的背景を、時事的テーマを踏まえ教授する。また、地域・在宅看護に関連する概念と活動の場・活動方法について基本的な知識を修得できるよう教授する。
地域・在宅看護援助論	2(30)	必修	3	後期	准教授 越納 美和	在宅療養者やその家族の特性を理解し、その人らしく生活していくための支援について、日常生活援助の工夫や終末期・難病・リハビリテーションの看護の観点から学修し、看護援助技術の修得を目指す。また、地域社会で生活・療養している人々の健康の保持・増進を支援する他職種の支援の実践を学べるよう教授する。
地域・在宅看護技術論	1(30)	必修	4	前期	准教授 越納 美和	地域に暮らす人々とそこで行われる看護について理解するとともに、療養しながら生活する際の様々な課題を知り、必要な看護活動について教授する。また、在宅ケアシステムについて、多機関・多職種との連携と協働、および社会資源とその活用方法を教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
保健医療福祉連携論	1(15)	必修	3	前期	准教授 越納 美和	保健医療福祉の動向(変遷と現状)から、連携の意義、看護の役割を教授する。 看護職が保健医療福祉活動を実践する際に必要となる他職種との連携について、他職種の役割、連携方法について教授する。
地域・在宅看護学実習Ⅰ	1(45)	必修	3	前期	准教授 越納 美和	地域包括ケアシステムの進化としての地域共生社会の実現にむけた地域・在宅ケアを理解する。フィールドワークにより、地域の特性や社会資源および地域の強みや弱みを捉え、地域の状況が療養者やその家族の健康や生活に影響を与えることを理解する。また地域共生型複合サービス等の多様なケアの見学を通して、地域で暮らす個人や家族のニーズと支援方法を教授する。
地域・在宅看護学実習Ⅱ	2(90)	必修	4	前期	准教授 越納 美和	地域・在宅看護援助論等で修得した在宅看護の基礎知識と援助方法との統合を図り、療養者やその家族の看護の展開過程を通して、生活の質を維持・向上するための看護の基礎的能力を教授する。また、地域包括支援センターにおける保健・医療・福祉の連携、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と機能について教授する。
成人看護学概論	1(15)	必修	1	後期	准教授 石井 真紀子	成人期にある対象の特徴を身体面・心理面・社会面から理解するとともに、健康観の多様性を理解することで、対象の健康的な生活を検討できるよう、必要な知識を教授する。また、対象の環境や生活習慣あるいは職業と健康障害との関係を考え、必要な看護を検討するために必要な知識や技術、体動を涵養する。さらに、対象の最善の利益にかなう看護を実践するために不可欠なケア・スピリット(倫理的な姿勢)の重要性に気づき、実践に移せるよう知識を教授することで態度を養う。
成人看護援助論	1(15)	必修	2	前期	准教授 石井 真紀子	成人期にある対象の多様化・複雑化する生活課題と健康問題に対処していく看護に必要な知識・技術・態度を教授する。さらに対象の健康問題の成り立ちと成り行きを理解するために、主に生活習慣に関連する疾病の発生病因と行動変容を導く看護について教授する。そして、これらの知識をもとに健康問題の悪化および予防のための看護を自ら考えられるよう基礎的能力を養う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
慢性期看護論	2(60)	必修	2	前期	准教授 石井 真紀子	代表的な慢性疾患を持つ人とその家族に必要な看護援助について、その根拠となる健康障害(病態・検査・治療)と、対象が抱える健康問題を、倫理的課題を含めて理解する。これらの理解を通して、慢性期看護学におけるコアとなるケア・スピリット(倫理的な姿勢)について学修し、慢性疾患を抱えながら生活する患者・家族に対する看護の方法を修得するよう教授する。
急性期看護論	2(60)	必修	2	後期	准教授 石井 真紀子	生命の危機状態および周術期にある対象と家族を身体面、心理面、社会面から理解するとともに、必要な看護援助の方法を修得できるよう教授する。特に手術が必要な健康障害が日常生活に及ぼす影響と、術前、術中、術後の特徴を理解したうえで、必要な看護について修得できるよう教授する。
成人看護学実習	4(180)	必修	3	通年	准教授 石井 真紀子	健康障害をもつ成人期以降の対象およびその家族と援助関係を形成し、人生や価値観を尊重した健康生活のあり方を支援し、対象およびその家族意思決定を支援するために、問題解決プロセスを用いて看護を実践する基礎的能力を養う。そして、対象者の最善の利益にかなう看護を実践するためのケア・スピリット(倫理的な姿勢)の強化を図る。
老年看護学概論	1(15)	必修	1	後期	教授 吹田 夕起子	学生が自らの高齢者観・倫理観を深化させる知識を教授する。また、加齢に関連する諸概念と理論、高齢者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解する視点および高齢者の健康レベルに合わせた質の高い看護を提供するための基礎知識を教授する。さらに、人口統計および社会構造の変化、高齢者への保健・医療・福祉サービスの現状と課題を教授する。
老年看護援助論	2(30)	必修	2	前期	教授 吹田 夕起子	加齢に伴う身体、心理、社会的変化の理解を基盤として、高齢者に対するヘルスアセスメントのポイントについて教授する。高齢者の生活を支える諸制度および社会資源、ヘルスプロモーションについて理解を深め、健康生活を支援する基礎的知識を教授する。また、認知症などについて理解を深めることにより高齢者と介護家族に対する看護方法について基礎的能力を育成するとともに、高齢者看護におけるチーム活動の重要性について教授する。さらに、高齢者への意思決定支援とエンドオブライフケア、倫理的課題について教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
老年看護技術論	1(30)	必修	2	後期	教授 吹田 夕起子	多様で複雑な健康問題を持ちながら生活する高齢者に対するヘルスアセスメント技術、高齢者の残存機能を活かした生活援助技術、安全に生活できる環境を整える技術等、効果的な看護を提供するための知識と技術を養う。ヘルスアセスメントの学修では、実践に即した方法を教授する。
老年看護学実習	3(135)	必修	3	通年	教授 吹田 夕起子	老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護技術論での学びを活用し、医療機関で療養する高齢者の看護実践を学修する。高齢者の加齢変化や多様な生活歴、健康問題を理解し、生活の質を考慮した看護援助を実践するための能力を養う。高齢者の残存機能、セルフケアをアセスメントし、個別性を踏まえ、尊厳と自立を考えた高齢者主体の看護を実践する姿勢を修得する。保健、医療、福祉の連携にも視点を向け、高齢者の社会保障制度や地域ケアシステムについて理解し、応用するための基礎的能力を養う。
母性看護学概論	1(15)	必修	1	後期	教授 橋本 美幸	ひとの性と生殖のメカニズムとその意義および女性のライフサイクルの特徴を理解したうえで、母性機能の健全な発達や、母子の健康と安全を擁護し支援する母性看護の役割について教授する。また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて、看護者として必要な基本的知識とケア・スピリットに裏付けられた看護専門職者としての態度・能力を養う。
母性看護援助論	2(30)	必修	2	前期	教授 橋本 美幸	母性看護学概論の内容の理解を踏まえ、妊娠・分娩・産褥期の女性および胎児・新生児の健康や成長・発達を促すために看護専門職として必要な看護とその方法について教授する。さらに、ハイリスク・異常妊娠・分娩・産褥など特別な状態にある対象のニーズの理解とともに、ケア・スピリットに則った看護とその方法を教授する。
母性看護技術論	1(30)	必修	2	後期	教授 橋本 美幸	母性看護援助論の内容の理解を踏まえ、妊娠・分娩・産褥期にある女性及び新生児の特性を理解し、母体および胎児・新生児の健康を維持・増進するための観察およびアセスメント技術を教授する。また、事例を通してウェルネスの観点に基づいた看護過程を展開することによって、母性看護に必要な情報の整理、アセスメント、計画立案、記録の方法を教授する。 さらに、シミュレーション教材を活用した演習を通して周産期各期に必要な看護技術、各期の母子(胎児)の看護に必要な技術及び実践に即した看護の基本技術を教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
母性看護技術論	1(30)	必修	2	後期	教授 橋本 美幸	母性看護援助論の内容の理解を踏まえ、妊娠・分娩・産褥期にある女性及び新生児の特性を理解し、母体および胎児・新生児の健康を維持・増進するための観察およびアセスメント技術を教授する。また、事例を通してウェルネスの観点に基づいた看護過程を展開することによって、母性看護に必要な情報の整理、アセスメント、計画立案、記録の方法を教授する。 さらに、シミュレーション教材を活用した演習を通して周産期各期に必要な看護技術、各期の母子(胎児)の看護に必要な技術及び実践に即した看護の基本技術を教授する。
母性看護学実習	2(90)	必修	3	通年	教授 橋本 美幸	看護の実践の場において、これまでに教授した母性看護の理論、知識、技術を用いた実践を臨床の場で活用できるようにする。具体的には、受け持ちケースまたはかかわった妊婦、産婦、褥婦、新生児を通して、周産期にある女性及び新生児の特性をより理解させるとともに、母子及び家族の健康保持・増進、予防、回復のための看護の方法を教授する。
小児看護学概論	1(15)	必修	1	後期	教授 濱中 喜代	小児と家族について、社会状況、小児関連統計、子どもの権利に関する条約等から理解する。また、小児の成長発達の特徴、発達段階ごとの生活と援助の概要について修得するとともに、小児看護の対象特性、実践の場、目標とアプローチの基本と課題について教授する。
小児看護援助論	2(30)	必修	2	前期	教授 濱中 喜代	健康が障害された小児の健康問題・障害の段階、入院に対する小児と家族の反応と影響要因、小児の入院生活における看護、退院に向けた看護、家庭療養中の看護等について教授する。また、健康を障害された小児の発達段階および経過別看護、状況別看護を教授し、さらに事例を用いた看護過程の展開を通して小児と家族に対する看護方法を教授する。
小児看護技術論	1(30)	必修	2	後期	教授 濱中 喜代	小児看護援助論の理解を基にして、健康を障害された小児の発達段階および経過別看護、状況別看護において、必要な小児看護学におけるコアとなる技術・ケア・スピリットについて学習し、小児と家族に対する看護の方法を教授する。小児看護におけるコアな技術については、シミュレーション教材を活用した演習を通して実践に即した方法を教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
小児看護学実習	2(90)	必修	3	通年	教授 濱中 喜代	健康な小児の保育場面を通して小児の心身の発達や生活及び生活援助を理解するための基礎的能力を養う。さらに病棟及び外来における様々な健康障害の段階にある子どもへのかかわりを通して、疾病・入院が小児に及ぼす影響を理解し、様々な健康段階にある子どもを、一人の価値ある人間として捉え、子どものもつ可能性を最大に引き出せるよう、対象の必要に応じた看護ができるための基礎的能力を養う。
精神看護学概論	1(15)	必修	1	後期	講師 黒木 雅美	精神看護の考え方、信頼関係等の精神看護の基盤および精神看護に必要とされる精神保健福祉法上の諸原則を教授する。また、精神状態と身体状態や日常生活との関連、精神科疾患をとりまく倫理的な課題、精神保健福祉について理解を促す。
精神看護援助論	2(30)	必修	2	前期	教授 岡田 実	精神疾患の症状および治療を精神医学と精神科看護の側面から教授する。精神疾患を抱える人々との関わり方やケアの原則を基に、精神疾患を抱える人々の対人関係の特性や生活上の困難を理解し、対象の強みを生かした生活ができる看護方法の演習や講義を実施する。また、精神疾患を抱える人々の人権擁護や処遇上の倫理的側面を理解し、地域を基盤とした生活を支援する方法を提示する。
精神看護技術論	1(30)	必修	2	後期	教授 岡田 実	精神看護援助論をふまえてメンタルヘルスの変調に直面している対象とその家族に対するアセスメント技術、援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学習する。シミュレーション演習として、精神看護技術についての学生同士のロールプレイ、教員及び模擬患者とのロールプレイなどを行い、スキルアップを図る。
精神看護学実習	2(90)	必修	3	通年	教授 岡田 実	これまで修得した知識や技術を用いて、精神科臨床において障害を抱えながら治療や療養生活を送る人々を理解し、精神症状による生活上の障害を考慮した個別性のある看護を提供する基礎的能力を養う。また、退院促進・地域定着や社会資源の活用、治療を継続する実際の生活に触れながら、精神障害を抱える人々を取り巻く社会状況や患者の人権について、考察を深められるようにする。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
公衆衛生看護学概論	2(30)	選択	3	前期	教授 佐藤 公子	公衆衛生看護の定義と特質及び公衆衛生看護活動の歴史、理念、機能について理解し、後に続く公衆衛生看護関連科目の基礎を教授する。
公衆衛生看護方法論	2(60)	選択	3	後期	教授 佐藤 公子	公衆衛生看護活動に特徴的な援助方法として個人・家族のセルフケア能力を高めるための理論と援助方法、および特定の集団に特徴的な問題を解決するための理論と援助方法について教授する。また、他職種・他機関との協働、地域のケアシステムの構築における看護職の役割と機能を学び、地域ニーズに対応した看護活動の展開と実践方法について教授する。
公衆衛生看護活動論Ⅰ (ライフサイクル別)	1(30)	選択	3	前期	教授 佐藤 公子	各ライフステージの健康を支援する施策、地域に顕在・潜在している健康課題の特徴及び個人・家族、集団、地域における公衆衛生看護活動の展開方法を教授する。また、学校・産業保健における公衆衛生看護活動の具体的な展開方法を理解し、公衆衛生看護活動を包括的に捉える能力を養う。
公衆衛生看護活動論Ⅱ (問題・課題別)	1(30)	選択	3	前期	教授 佐藤 公子	地域のリスクを抱える人々の公衆衛生看護活動に関連する法令や施策を教授する。また、リスクを抱える対象の特徴とその個人・家族、集団、地域における具体的な公衆衛生看護活動の展開方法を教授する。
公衆衛生看護管理論	1(15)	選択	3	後期	教授 佐藤 公子	保健師として質の高いサービスを提供するために、公衆衛生看護管理の概念と機能、さらに人的資源・物的資源・経済的資源等の管理能力やリーダーシップ等について総合的な知識を修得できるよう教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
疫学・保健統計Ⅱ (分析・評価)	1(15)	選択	3	後期	非常勤講師 坪田 恵	集団における健康現象の観察や統計処理の基礎となる統計学の主要概念、基礎的理論、統計学的調査法や分析方法について教授する。また、演習を通じ、疫学的調査、疾病頻度や曝露効果の指標による評価方法を理解し、公衆衛生看護活動をエビデンスに基づく活動として立案、評価できる実践能力を養う。
保健医療福祉行政論Ⅱ (実践・演習)	2(30)	選択	4	前期	教授 佐藤 公子	公衆衛生看護においてその活動を行政組織のなかで事業化する理論と方法について保健・医療・福祉の広い視野から教授する。また、具体的事例を取り上げ、演習を交えて実践的に教授していく。
公衆衛生看護学実習	5(225)	選択	4	通年	教授 佐藤 公子	地域で生活している人々を理解し、支援するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。
エンドオブライフケア論	1(15)	必修	3	後期	准教授 石井 真紀子	がんに限らず何らかの健康問題により死が近い状況におかれた患者と家族を全人的に理解し、生を全うできるための援助について講義する。さらに、緩和ケア、症状マネジメント等の援助の具体的な方法を提示する。
災害看護論	2(30)	必修	4	前期	非常勤講師 千島 佳也子	災害の概念や災害時の健康障害、災害サイクルに応じた適切な支援を理解し、災害発生時に対応できる基本的な知識を修得できるよう教授する。また、我が国の災害に関する法制度を踏まえ静穏期の防災・減災活動における看護職の役割について学習し災害看護を理解する上での基盤となるよう教授する。急性期、亜急性期、慢性期、復興期の看護に必要な健康問題への対応策やこころのケアの必要性とその具体的な方法をライフサイクル別の看護を通して教授する。また、災害時における被災者や専門職のジレンマを題材にロールプレイングを行い、「想定外」の出来事への対応について教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
感染看護論	1(15)	選択	4	前期	非常勤講師 井上 都之	既習の感染症学の知識を前提に、個のレベルでの感染症の発症を防ぐための看護、集団内での流行を防止するための教育・指導、院内感染の特徴ならびに施設内での流行を防ぐための感染管理と、感染症患者の看護について教授する。特に、感染制御に関連する法律やスタンダードプリコーション(CDCガイドライン)などをもとに基礎的な知識と技術を教授する。
看護教育論	1(15)	選択	3	後期	教授 永井 睦子	看護教育制度の歴史的発展過程と現状と課題、看護学におけるカリキュラム、学習における理論、方法、教育評価について理解する。看護職として必要な継続教育の機会、方法などを学び、キャリア開発の視点から看護専門職として自律的に学び続ける基盤となることを目指す。
看護管理論	1(15)	必修	4	前期	教授 土田 幸子	看護の提供に関わる管理システムの基本的な考え方から、看護組織を運営していくために必要な組織論・リーダーシップ論・管理理論などの基本的知識を教授する。また、より良い看護を提供するための管理方法と今日の課題・看護専門職としてのキャリア開発について考察する。
実践看護論	1(15)	選択	4	後期	教授 土田 幸子	臨床場面で遭遇する予期せぬ急変の場面をとりあげ、その原因を予測し急変を回避するために必要な臨床判断のための知識・技術を教授する。また、臨床場面で実施する診療に伴う様々な援助技術について演習を通して観察点や留意事項などを教授する。
国際看護論	1(15)	選択	4	後期	非常勤講師 千島 佳也子	近年、国際的概念となりつつあるグローバルヘルスについて教授する。また、看護を实践するうえで、これまでの個性や地域性に加え、多様な文化の理解、グローバル・リテラシー(国際社会の変化に対応する能力や資質)が求められるため、グローバルな視点で看護を考える力を養えるように教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
ケア・スピリット論Ⅲ (臨床倫理のあり方)	1(30)	必修	4	後期	教授 濱中 喜代	臨床現場で看護師をはじめとして医療従事者が患者本人や家族と向き合い・寄り添いながら医療・ケアを進めていく際に生じる問題に、多職種が共同で対応する際の要になる「どうしたらよいか」を考える営みを臨床倫理という。本講では、基本的な考え方について講義した上で、履修者が実習で遭遇した事例を出し合い、看護学の領域の担当教員と臨床倫理を専門とする医師である担当教員とがスーパーバイズする事例検討を通して、臨床倫理を進める力を修得するよう支援する。
がん看護論	1(15)	選択	3	前期	准教授 石井 真紀子	がんの疫学、予防、診断・治療の基本的知識と最新の動向を教授する。それをもとに診断・治療の段階や、がんの進行による臨床経過の特徴を全人的苦痛(身体的・心理的・社会的・実存的)の視点で解説する。これらをふまえ対象が主体的に療養を継続し、その人らしく生活するために必要な看護の基礎的能力を養う。
認知症ケア論	1(15)	選択	4	前期	教授 吹田 夕起子	認知症者および介護家族へのケアおよび保健医療福祉サービスについての今日的課題について理解を深め、より良い認知症ケアおよび認知症者を支える共生社会構築への姿勢を修得するよう教授する。今日的課題として、認知症の理解、偏見、人権尊重、個別性を尊重したケア、介護家族へのケアの在り方などについて教授する。
実践看護特論	1(30)	必修	4	通年	教授 土田 幸子	今まで学んできた基礎科目や専門科目を看護実践の観点から統合し、看護実践者として機能していく力を形成できるよう教授する。看護のさまざまな事例を取り上げ、演習形式で展開する。
看護研究方法論	1(30)	必修	3	後期	教授 橋本 美幸	看護学発展の基礎となる研究の意義を教授する。また、研究過程(研究課題の発見、研究デザインと研究方法の決定、データの分析、研究結果の解釈と報告)、研究における倫理、および看護学に関する研究の成果としての研究論文の読み方に関する基本的知識を教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科 目 名	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者 (担当教員)	授 業 概 要
総合実習	3(135)	必修	4	後期	准教授 越納 美和	専門職として自主的に学び続ける姿勢を養うため、4年間の学習を統合し、学生自らの課題意識に基づき、自らが実習目標を明確にする。また、看護実践能力を養うため、各領域の対象者に応じた計画的かつ優先順位を考慮した看護の実践や多職種で構成されるチームの中で協働する能力を高め、看護マネジメントのあり方について理解する。学生自身の課題に応じて、臨地における看護職の役割について考察できる能力を養う。
卒業研究ゼミナールⅠ (研究計画)	2(60)	必修	4	通年	教授 吹田 夕起子	学生がこれまでの講義・演習・実習を通して興味・関心を抱いた看護現象から関連する専門領域を選択する。選択後は、「看護研究方法論」および既習の知識を活用し、各領域の教員から指導を受けながら4年間の学習を統合し、看護実践に必要な研究成果を探索し、実践に活用する方法を学ぶ。そして、各自の課題を明確にし、文献検索と検討から研究テーマを抽出し、研究目的に沿った研究計画書を作成する。研究計画書作成のプロセスから、研究的思考、研究における倫理的態度、研究の基礎的な手法について修得できるよう指導する。
卒業研究ゼミナールⅡ (研究実施)	2(60)	選択	4	後期	教授 吹田 夕起子	卒業研究ゼミナールⅠで作成した研究計画書をもとに、データの収集・分析・記述・研究発表を実践し、研究論文としてまとめる。一連のプロセスから、研究的思考、研究における倫理的態度、研究の基礎的な手法について理解ができるよう教授する。
合計単位数	131					